

社会課題への取り組みと事業ポートフォリオの変遷

旭化成グループは、これまで時代とともに変化する社会のニーズを捉え、ダイナミックに事業ポートフォリオを転換し、さらに製品やサービスの提供を通じて社会課題の解決に貢献してきました。昨日まで世界になかったものを生み出し提供することで、世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献していきます。

事業ポートフォリオ変革と成長の歴史

1922年～

創業、日本初の
合成アンモニアの製造を開始

1940年代～

合成樹脂、合成繊維へ展開

1960年代～

石油化学、住宅、ヘルスケア、
エレクトロニクス分野へ展開

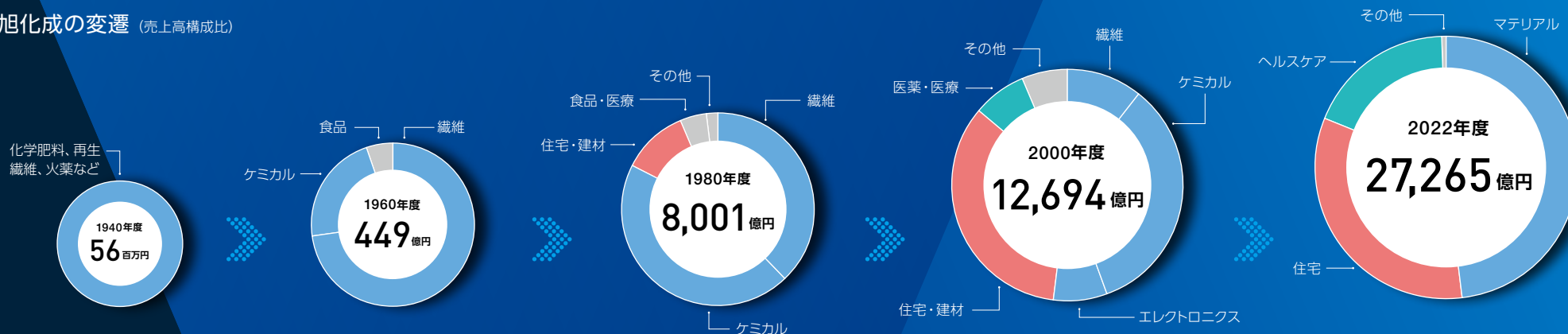
1980年代～

海外事業の進展と事業再構築への
注力

2000年代～

M&Aによるグローバル化の加速、
ヘルスケア事業の拡大

旭化成の変遷 (売上高構成比)



事業ポートフォリオの変遷

→ 新規参入・M&A ← 撤退・縮小・譲渡

- アンモニア
- 再生繊維(キュプラ繊維、レーヨン)
- 化学肥料
- 食品(グルタミン酸ソーダ)

- ポリスチレン樹脂
- 合成繊維(アクリル繊維)

- 「サララップ®」
- アクリロニトリル
- 合成ゴム
- エチレン(ナフサクラッカー建設)
- ALC(軽量気泡コンクリート)
- 戸建住宅「ヘーベルハウス™」
- 人工腎臓
- 医療用医薬品

- ホール素子
- LSI
- リチウムイオン電池用セパレータ
- 集合住宅「ヘーベルメゾン™」
- 断熱材
- 東洋醸造(株)合併(医薬・酒類)
- ウイルス除去フィルター
- ← 食品

- 電子コンパス
- 深紫外線LED
- 水素製造システム(実証実験中)
- 住宅新規事業(シニア、中高層、海外)
- クリティカルケア
- ← レーヨン、アクリル繊維、ポリエステル
- ← 石油化学事業再編
- ← 酒類

社会課題の解決に貢献する、新たな価値提供の歴史

社会のニーズ・時代背景

旭化成グループの変遷

1922年~

近代国家として成長する日本では、農業や重化学工業を発展させる技術が求められました。

「衣」「食」を支える事業からスタートし、生活の安定に貢献

- 肥料として農業の生産性を高めるアンモニアの合成に成功
- 絹のような特長を持つ人造繊維「ベンベルグ®」の生産を開始

1940年代~

日本が戦後復興から高度経済成長に向かう中、生活物資の充足が喫緊の課題となりました。

生活の質を向上させる新規事業を展開

- 合成樹脂や合成繊維「カシミロン™」などさまざまな新規事業に進出

1960年代~

経済が高度成長期に入り、住生活の向上や医療技術の発展、社会資本の整備が必要になりました。

「衣・食・住の総合化学メーカー」として便利で快適な暮らしを提供

- 消費者のマイホーム需要に応えるべく、住宅事業を本格展開
- 大型石油化学コンビナートが稼働、石油化学事業に本格進出
- 「サララップ®」の発売開始、樹脂製品事業に進出
- 人工腎臓など医療機器事業を開始

1980年代~

情報社会が到来し、携帯電話、パソコン、AV機器などが普及し始めました。

現代の生活に欠かせない情報機器のキーパーツを供給

- 化学工業のノウハウを活かし、LSIなどエレクトロニクス分野へ参入
- LIB用セパレータの販売開始

2000年代~

地球温暖化など世界的な環境問題や、先進国における高齢化が顕在化しました。

世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献

- カーボンニュートラルに向けた技術開発やCO₂排出量削減など、サステナビリティ対応を推進
- M&Aによる救命救急医療事業への進出など、ヘルスケア領域を強化
- 日本で培った戸建住宅のノウハウを活かし、北米・豪州住宅事業に進出
- 米国製薬企業の買収によって、医薬事業をグローバルに拡大

